

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A棟)

事業所番号	0290100049		
法人名	社会福祉法人 桐紫苑		
事業所名	グループホームあべの		
所在地	青森県青森市幸畑字阿部野163-112		
自己評価作成日	平成22年10月7日	評価結果市町村受理日	平成23年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花と自然に囲まれた中で、笑顔の絶えない生活を支援いたします。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.aokaigoiyuho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0290100049&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年11月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣の団地や保育所の行事に相互に参加し、交流が深められている。また、地域の消防団、交番、タクシー会社との協力関係が強く、災害時や利用者個人での外出時などには心強い存在となっている。利用者の希望にもできる限り対応しており、お山参詣や外食、温泉等に行ったり、電話や手紙で馴染みの方との関係を継続することもできる。家庭的な雰囲気、職員と利用者が一緒に楽しく日々の生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 外 己 部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は地域密着型サービスの役割を理解し、安心して充実した生活が送れるよう支えるという、独自の理念が作成されている。	地域密着型サービス移行後、職員全員で話し合い、「花と自然に囲まれた中で笑顔が絶えない生活を支援致します」という独自の理念が作成されている。理念は、玄関や休憩室に掲示することで、共有化し日々のケアに反映させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から隣近所の人と気軽に声を掛け合ったり、誕生会、敬老会、クリスマス会等に地域の人達を招いて、地域との交流を図っている。	日頃から散歩に出掛けたり、職員が地域の行事に参加することで、近隣の団地の方が野菜等を持ってきてくれたり、交流を図っている。交番や消防団、タクシー会社等と協力体制を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部から人を受け入れる時は、利用者のプライバシーに十分配慮している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議メンバーに会議の意義や役割を理解してもらい、積極的に参加を促す取組みを行っている。	運営推進会議は行事に合わせて開催する等、積極的に参加を促すような取組みがされている。会議には町内会長、民生委員、地域の消防団、地域包括支援センター職員、家族等が参加し、評価結果の報告や今後の取組みについて話し合いが行われ、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護担当者や介護保険課担当者、運営や問題等について連絡を取り、訪問があったときは情報提供を行ったり、連携を図っている。運営推進会議にも参加してもらっている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員が毎回参加しているほか、市役所にパンフレットと自己評価・外部評価の結果を提出している。日頃から市役所に出向き、課題解決に向けた相談ができる体制が出来ている。		

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	全職員が身体拘束について認識し、理解しており、基本的に拘束のないケアを実践している。	身体拘束排除の取り組みに関する方針があり、外部研修や内部研修で理解を深め、行わない姿勢を徹底し、サービスが提供されている。玄関等は施錠しておらず、外出傾向を察知した場合には、職員が気の済むまで付き添い、付き添いを拒否する場合には、離れて見守っている。交番やタクシー会社、消防団には協力を依頼しており、無断外出に備え協力が得られる体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外・内部研修の実施等を通じて、全職員が虐待防止法に関する理解を深める取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者、職員は研修を通じて常日頃勉強し、報告しながら情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者やご家族等に事業所の理念等、ケアの方針について説明している。入居者やご家族の意見や疑問を聞き、十分納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、意見を十分聞き取りながら、運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置したり、苦情受付窓口を明示している。普段の何気ない会話等から利用者の不満や意見等を察するよう全職員で取り組んでいる。家族には利用者の状況を定期的に報告し、意見を出しやすいよう働きかけている。	

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段のミーティングを通じて職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	申し送りやミーティング、月1回の会議の他、休憩中や普段の会話の中から職員の意見や提案を聞き出している。利用者への影響を考慮し、法人内での職員の異動は極力行わないようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の努力や勤務状況を把握している。就業規則があり、守られている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や経験に応じた研修会を通じて育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者、職員は研修会を通じて、同業者と交流し意見を交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の普段の行動を良く観察し、利用者や家族と面談したり、直接話を聞く機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談を受けた場合、家族の思いや希望、ニーズを把握するよう努め、信頼関係を築くよう対応している。		

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、スタッフと話し合っ てその時何が必要かを考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の喜怒哀楽を共感し、理解するように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時、面会時、家族との情報交換を行うことにより、家族の思いを把握している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者がこれまで関わってきた人との交流を継続できるように支援している。	入居時に自宅を訪問して面談を行い、これまでの生活を把握するよう努めている。また、これまで関わってきた家族や知人との手紙や電話のやり取りを継続できるよう支援し、美容院等馴染みの場所にも出掛けられるよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間のミーティングにおいて、利用者の人間関係を把握し、利用者が孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても相談に応じる姿勢を、利用者や家族等に示している。		

自 己 外 部 部 部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に職員は利用者間の希望や意向を把握するように努め、生活の中に反映させている。	入所時に希望や意向を把握することはもちろんのこと、センター方式で詳細に把握されている。意思疎通が困難な場合には表情やしぐさから読み取ったり、家族や関係者の情報をもとに職員間で話し合い、日々のケアに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	共同生活の中、個人それぞれの生活歴や馴染みの暮らし方を尊重するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングや申し送りを通じて、職員皆で情報を共有し、支援に活かしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の身体状況の変化や家族の希望に変化がないか、常に観察、把握するよう取り組んでいる。	計画作成時は、日々のケアに携わる職員や本人、家族と十分話し合いを行い個別具体的な計画を作成している。介護計画の実施期間を明記し、3ヶ月に1回はモニタリングを行っており、状態変化や希望等があれば随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、バイタルチェック等の記録をミーティングや申し送りにより情報共有し、計画の見直し、実践に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が、より安心して生活できるように、警察署、消防署、民生委員等とその都度連絡を取りながら協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を受け入れながら、医療機関を受診できるように支援している。	入居前からのかかりつけ医や希望する医療機関を受診できるよう支援しているが、本人や家族の希望もあり、ほとんどの方が協力病院からの往診を利用している。認知症や歯科等の専門医も受診できるように支援されており、受診結果は随時家族に報告し、納得が得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアを、看護師と職員がよく相談しながら行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と利用者に関する情報交換や退院に向けた支援体制が整えられている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度や終末期の利用者が、日々より良く暮らせるよう、職員、家族、医療機関と話し合い、ケアをしている。	重度化や終末期ケアに対する指針があり、入所時にホームでできることできないことが説明されている。研修等で職員には周知され、入所時指針に基づき利用者、家族、医療機関とも話し合いが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に対応できるように、緊急時対応マニュアルを作成し、実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いざという時に適切な避難誘導が行えるよう、住民や警察署、消防署等からの理解、協力を得られるよう働きかけを行っている。	災害時に備え、年2回消防署や地域住民の参加で避難訓練が行われている。夜間を想定した訓練も行われており、消防設備も業者に委託して行われている。毛布や水、缶詰等非常用物品も準備されている。	非常用物品はある程度準備されているが、母体施設の存在が大きい。施設が山間部に位置していることから、ホーム内(各ユニット)に十分な量を用意することに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の意向を配慮した上で、声掛け対応し、ミーティング等で話し合っている。個人情報の取扱いには常に慎重に行っている。	利用者への声かけは大声で呼んだりすることではなく、本人と家族に確認した呼び方で個々を尊重している。羞恥心を伴う介助時はプライバシーに配慮し、部屋で二人きりで話している。利用者の個人情報は、鍵付きの引き出しにて管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日々のかかわりや、家族からの情報をもとに希望や思いを聞き取り、把握し、自己決定できるよう配慮し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた対応をし、希望に沿って過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を聞きながら行っている。月1回理容院が来てくれたり、美容師まで家族や職員が連れて行ったりしている。		

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒の席に着き、会話を楽しみながら食事時間を過ごしている。配膳下膳、下準備も一緒にしている。	母体施設の栄養士が管理しているメニューを基本に、好みのものに配慮しながら、代替食で対応している。野菜の皮むきやテーブル拭き、配膳、下膳等職員と一緒に行為されており、職員も一緒に席に着き、会話を楽しみながら、さりげないサポートが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量と水分摂取量を記録し、把握している。また、嚥下機能が低下した人には調理の工夫や介護方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の手入れの必要性を理解し、毎食後に口腔内の洗浄や入歯の手入れ等を、職員も一緒に行ったり、声掛けをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し把握している。パターンに応じて誘導し、自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンが記録されており、それをもとに事前誘導をすることで、自立に向けた支援が行われている。オムツ等の使用についても、継続するか否かを介護計画をもとに随時見直しを行っている。誘導時や失禁時は、耳元で居室に誘導する等、利用者の羞恥心に配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食材やメニューの工夫、水分補給を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日を決めてやっているが、その人の状態に応じて、随時入浴されている。入浴拒否の利用者に対しては、タイミングを見計らって、声掛けや対応等の工夫を行っている。	週2回の入浴日を設けているが、希望があればいつでも入浴することができる。羞恥心に配慮し、一人での入浴や仲の良い方と入浴、希望によっては、職員も一緒に入浴している。入浴を拒否する方には、家族と一緒に入浴してもらったり、温泉と一緒に行く等工夫されている。	

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の出来事や疲れ具合に応じ、柔軟に休息を取り入れている。眠れない利用者には必要に応じて家族や医療機関と相談しながら、眠剤を与えることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が、全利用者の内容を把握できるよう、取り組みを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合った役割や楽しみごとを促す働きかけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の楽しみや気分転換につながるように、日常的に外に出る機会を作っている。	日常的に近所の100円市に出掛けたり、庭で畑を作り、外出する機会を設けている。毎年お山参詣に行く方や毎週蕎麦を食べに行く方もおり、利用者の希望を取り入れている。利用者のその日の身体状況にあわせ、家族も一緒に出掛けたり、個々にあったケアを実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量や希望、家族に配慮しながら、利用者自らが金銭管理ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら、必要に応じて、いつでも電話の使用や手紙のやり取りも自由にできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には暦や飾りつけ、季節に応じた手作りの掲示物等、居心地良く過ごせる工夫をしている。	ソファや畳スペースを設け、利用者同士で楽しく過ごせるよう工夫されている。笑い声が絶えず、職員がたてる物音や声も気にならず一緒に楽しい時間を過ごしている。テレビ等の音量や採光も適切で、飾りつけで季節を感じられる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファや椅子を置いたり、畳のスペースもあり、個人個人や利用者同士で過ごしやすいよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真や、馴染みの物を置いてもらい、家庭環境と同じような工夫をしている。	ベッドとタンスは備え付けで、仏壇や写真等馴染みのものが持ち込まれている。利用者が安心して過ごせるよう、本人、家族、職員が一緒になって居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全を考慮し、利用者の身体状況に応じて、手すり等を設置したり、利用者の変化に対応して改善の工夫をしている。		